

くすのき



岡本小学校 学校だより

No.8

令和4年11月8日

『生き生き学校2』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



体育フェスティバルの学び

(1年生)

わたしが いちばん がんばったのは、たまいれです。たくさん たまを 入れることができました。

1くみに まけたけれど、さいごまで がんばりました。2くみの みんなと きょうりよくできるようになって よかったです。



(2年生)

今日は体育フェスティバルがありました。今日までのれんしゅうで、いちばんむずかしかったです。

とくに、足をひろげて、手を動かすところがむずかしかったです。

これからは、体育フェスティバルだけじゃなくて、にがてなこともがんばります。



(3年生)

前は「これできないでしょ」とか、マイナスになっていたけれど、ダンスや体育フェスティバルで、「これ、

もうちょっと練習すればできるかも」とか、「もうちょっとがんばろう」とかみたいに、前向きになれる自分になりました。



(4年生)

ソーラン節の目標「力強い、かっこいい、楽しい」が達成するまで、失敗したりしたけれどあきらめなかったから、今目標を達成できたのだなと思いました。

体育フェスティバルで得たものは、あきらめない心です。初めは、

「ソーラン節、おり」などと言っていたけれど、あきらめないでやったらできたからです。



(5年生)

いっぱい練習して、最後はくいのないように楽しく踊れました。

委員会では自分も友達もがんばって、「踊りだけじゃなくて自分の仕事(委員会)をして、学校全体を動かしているんだ」と思えたので、いろいろやっても失敗ばかりの私に、元気をもらったような気がしました。

委員会では、少しだけ、人にも言われずに自分から動きました。

これからも苦手なものでもがんばって、こくふくしようと思いました。



(6年生)

体育フェスティバルを通して得たものは、「自分たちの力で最後までやり通す」という力だと思います。

これまでの経験から、最初は「少人数でも完成するでしょ」と思っていたけれど、時間が経つにつれ、「自分も参加しないと!」と、良い演技にするためにたくさん話し合いました。その時の感情はすごく全力でした。

一人の力じゃなくて、全員の力を合わせることで、よりよい演技ができるなど思える機会でした。今後生かしていきたいことは、「自分達で」「努力」「協力」です。



晴天に恵まれた体育フェスティバル…多くの皆様の応援の中で、子どもたちは自身の目標におかって、精一杯の力を発揮することができました。

5時間めには、全校で振り返りを行いました。これまでの学びから得たことを振り返ることで、自分自身の成長に改めて気づくことができました。

「できた」ことは必ずメモをして振り返る、こうしたことを継続していくことで、自然と自己肯定感が高まります。ありのままの自分を認められる大事な1日となりました。ご協力ありがとうございました。

学びの秋～4年生～

4年生が保健体育の学習で「思春期の心と体」の学習を行いました。4年生の学級担任と嶋田養護教諭がチーム・ティーチングで指導しました。

精通や月経という体の変化が起こること、こうした体の変化とどう向き合うかについて、具体的に学びました。初潮指導はこれまで女子だけに行っていましたが、今年度は男女が共に学び合うことにしました。互いの違いについて理解することで、自分とは異なる性に対する思いやりの気持ちが芽生えています。



女の人は一か月に5回月経をするってびっくりした。女の人、こんなに苦しんだっていうのもわかった。ナプキンのたたみ方も分かった。

おなかが痛くなったらどうやったら治せるかとか分かった。(男児)

男子にも体の中の変化があることを知りました。私は友達よりも早く生理が来ていたので、個人差があることを知って安心しました。月経・初経は知っていたけれど、射精・精通は初めて聞いたので、勉強になりました。

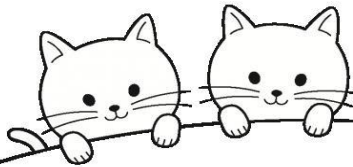
友達も生理が早く来たと言って不安そうにしていたので、友達も安心したと思います。(女児)

学びの秋～5年生～

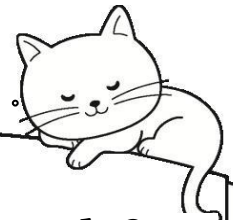
11月3日(木)、5年生がふれあいの村に出発しました。3年ぶりの宿泊を伴う実施となり、子どもたちも教職員も喜んでいます。晴天に恵まれ、南足柄の自然を思いっきり満喫することができました。

学びの秋～6年生～

11月1日(火)、南足柄市教育研究所から中村俊文先生をお招きし、6年生が「大地のつくり」を学びました。私たちが住む地域はもとも海だったことを知り、約200万年前の貝の化石を手取るなどしながら、しばし悠久な大自然の世界に浸りました。



わたしのひとりごと…



2歳と3歳の年子の孫を見ていると、実におもしろい。当の母親は、「いつになったら、お兄ちゃんと自分の違いが分かるようになるのだろうか?」と、頭を悩ませていますが…。

2歳の子は、3歳のお兄ちゃんのことを「お兄ちゃん」とは全く思っておらず、お兄ちゃんの手を持っているものは、当然自分も持つてなくてはならないし、お兄ちゃんができることはもちろん自分もできると思っています。「お兄ちゃん」は、まさしく自分のライバルなのです。

お兄ちゃんにしてみれば、たまったものではありません。やることなすこと全部真似されるし、持っていたおもちゃは全部取り上げられるし、渡さなければ渡さないで大きな声で泣き叫ばれるか、ママに叱られるか、なのです。

自分をメタ認知(自分と他者の違いが分かる、自分を客観的にみる)ができるようになるのは、9〜10歳ころと言われています。

「あの子は足が速いのに、どうして自分は遅いのだろうか?」そんな悩みが深刻になるのもこのお年頃です。

「どうして自分はできないのだろうか?」どんな子どもも、いつかはそんな壁にぶち当たります。そう思っているうちは、まだ大丈夫。しかし、自分でも「どうして?」と思っているのに、周りから追い打ちをかけるように「どうしてできないの!」と言われてしまうと、「どうしてできないのだから、もうやらない」という考え方に変わっていきます。

「どうしてできない?」が「どうしてできない」に変化する前に、私たち大人は「どうしたらできるようになるのか?」を示唆してあげることが必要です。岡本小学校の『みんなの教室』は、こうした役割も担っています。ぜひご活用を。